



みろく

Kambara Family

— MIROKU —

No. 13

2019年8月8日発行

子ども、教育、みらい  
地域から国へ、国から地球へ

# 広がるヒューマン・サポート

## 小学校は 地域の宝

### イエナプランという 教育システム

今年の3月、中国新聞にとても興味深い記事が掲載されました。内容を要約すると、「それぞれ年齢の違う子どもが同じ学校の同じクラスで学ぶ『イエナプラン』という新しい教育システムを福山市の教育委員会が取り入れ、それを常石小学校の校舎・設備を活用して実施することが決まりました」というものでした。

イエナプラン教育を少し詳しく説明すると、ドイツで生まれオランダで普及している教育法で、年齢の違う子ども（1年生から6年生まで、1クラス30人）が同じクラスで関わり合うという教育法です。これによつて、年齢を超えて協力し合うことを身につけ、生徒それぞれの理解度や興味に合わせ

て学習できる効果が得られるといふものです。

意外と思われるかもしれません。が、この記事と常石グループは深くながつているのです。なぜなら、この教育法を取り入れた学校の設立・計画・実施は常石グループのバックアップ（2018年12月正式提携）によって成立した経緯があつたからです。提携の内容は、施設や設備の構築・整備の他、日本語学校運営のノウハウを提供して外国籍の児童の学習支援なども含めて全面的に支援するといふものです。

話は前後しますが、地元の小学校であり神原家の人々も深く関わってきた常石小学校は、廃校が予定（2022年）されていました。つまり、常石グループの多くの企業が集結する常石地区に小学校がなくなってしまうことが現実化しようとしていたのです。小

くなる→高齢化する。最もシンブルに考えただけでも、こうした未来につながるのです。

常石グループ発祥の地であり、現在多くのグループ企業とその関連企業が集まる常石地区に子どもがいなくなることは、避けなければなりません。そのためにも、イエナプランという新しい教育法を取り入れた学校の新設は、とても意義の深いものとなるのです。

### 常石小学校と神原家の 関係

常石小学校と神原家のつながりは非常に強いものがあります。

それは、第2世代の神原和枝、神原秀夫から始まり、第3世代、第4世代のほとんど全員が入学。卒業した地域の小学校というだけではありません。もちろん常石グループ従業員の子弟が通っていた、通つている、地域の小学校というだけでもありません。

もっと深く、常石小学校の設

立、移転、新校舎の建設まで、神原家と常石グループは物心両面で支援してきた経緯があるのです。ご存じだと思いますが、初代の神原勝太郎はわずか9歳で尋常小学校を退学して、家と家族のために働き始めた人です。そんな彼が、「一番悔やんだのは『教育を受けられなかつた』ということでした。ですから、地域の子ども



神原勝太郎胸像



ツネイシ花火2017



もたちが勉学に励む施設としての小学校に対する思い入れば、人一倍大きなものだったのです。ある時は私財を提供し、ある時は千年村議会を動かして地域児童の教育の場としての常石小学校を支援し続けてきました。もちろん、第2世代、第3世代、第4世代の人たちも、常石小学校に対しての支援を惜しみませんでした。

そんな常石小学校がなくなってしまうかもしれません。ファミリーの思い入れはいつたん置いておくとしても、地域の発展という観点からは小学校がなくなることは絶対に避けなければなりません。なくなってしまうなら新しい学校を、それが新たな発想から生まれる新たなタイプの小学校であるなら、なおのこと支援と協力を惜しむ理由はないのです。

前項で紹介したイエナプランシステムを取り入れた新しいタイプの小学校を、常石小学校をベースとして立ち上げるプロジェクトとの提携は、こうした経緯によるものだったのです。

9歳で小学校を自主退学した初代神原勝太郎は、やがて海運業で成功しました。しかし、彼は教育の大切さを痛感していました。それが常石小学校への各種支援につながっています。そしてもう一つ、勉学の能力も意欲も高いにも関わらず、かつての自分のような境遇（貧しさ）ゆえに上級の教育を受ける機会を失う郷土の若者たちに、上級の教育を受ける環境を提供したい。それが若者の未来、やがては沼隈郡や千年村の未来を切り開く助けになるはずだ。

こうして立ち上がったのが「神原育英会」（1954年設立）です。若者の学資補助と組織の運営に充てる資金は、当時勝太郎が所有していた鉄鋼船「第二天丸」の運航利益金の全額を投することにしました。つまり、私財を提供して若者に未来を夢見てもらおうというのです。

1954年の神原育英会設立以来、勝太郎が亡くなった1961年までの8年間の記録が残っています。これによると「1962年現在、学資資金貸与学生95名、内卒業生75名、在校生20名、進

## 若者への教育機会を提供する神原育英会

# 「学び」への強い思い

学先は官公私立大学および高等学校二十数校にわたっている」となっています。勝太郎生前のわずか8年間だけでもこれだけの実績を持ったという事実は、神原育英会によって多くの学生・生徒が未来を見出したこと物語っているのではないでしょうか。

## グローバルに広がる教育支援の輪

神原育英会の精神は確実に引き継がれ、現在では64年の歴史を持つ育英会として多くの学生に教育の機会を提供しています。奨学金提供者数は、延べ600人をはるかに超えています。平成以後は高校生の利用者はほとんどありませんが、理系・文系・芸術系の区別なく、より高い教育機会を得た彼らの活躍は、設立に力を注いだ人々、それを引き継いで現在の育英会を運営する理事、評議会、スタッフにとて大きな喜びとなっています。

当初の奨学金提供対象者は沼隈地区の若者でしたが、そのエリアは広がり、備後地区、広島県と岡山県、そして全国の学生を対象とするようになっています。また、日本人対象者以外にも、弥勒の里国際文化学院日本語学校の生徒の何人かも、この育英会を利用して日本の教育を受ける機会を得ています。さらに、フィリピン、中国、パラグアイ、ウルグアイなど、常石グループと

## 新たなCSRと いう発想

事業の成長は雇用の創出につながる。雇用の創出は従業員の生活安定につながる。従業員の生活安定は地域経済の発展につながる。本来、企業の社会的使命とはこの3つ（法令順守は当然のこと）をクリアしていれば完結だったはずです。





しかし、ここからもう一步踏み込んで、地域社会の人々の住民生活の向上への支援を多方面、なおかつ持続可能な状態で展開しなければならない。そんな第4の社会的使命をクリアすべきという考え方が、企業関係者の中に広がり始めています。これをCSR (Corporate Social Responsibility) といいます。簡単にいって、「会社の経営者は、自分の会社の発展を社会の発展に結びつける責任を負っている」という考え方です。

ここで前の2項「小学校は地域の宝」「『学び』への強い思い」をもう一度読み返してください。常石小学校のイエナプラン校化も、神原育英会の立ち上げと運営も、どちらもCSRの考え方のもとに展開されてきた(展開されている)ものだつたということが分かると思います。

## ■活動報告

### 子どもの健全育成

- 2016年4月1日 松永東保育所へ遊具を寄贈
- 2015年8月18日 和太鼓コンサート リハーサル見学・演奏体験イベント@府中
- 2014年8月31日 みろくの里サマースクール2014@福山
- 2014年8月8日 「ゼノ」やまびこ学園 海水浴招待@福山
- 2014年4月30日 2014光信寺スプリングスクール@神石高原町
- 2014年4月1日 みろくの里スプリングスクール2014@福山

### 地域活性化

- 2015年7月23日 ツネイシ花火開催@尾道
- 2013年12月11日 人・まち・ふくしフェスタ2013@うつみ・ぬまくま@福山
- 2013年11月29日 ツールドいくちじま@尾道・生口島
- 2013年10月17日 フロアホッケー大会@広島市
- 2013年10月1日 お蔵出し映画祭2013@尾道・福山
- 2013年8月10日 「ゼノ」やまびこ園 海水浴招待@福山

### 文化伝統支援

- 2014年2月10日 第7回光信寺新春神楽共演会@神石高原町
- 2013年1月17日 第6回光信寺新春神楽共演会@神石高原町

## ツネイシみらい財団

こうしたファミリーのDNAに刻み込まれ、その延長線上にあるグループ各企業の社会貢献(CSR)という考え方もとに生まれたもの一つとして、「ツネイシみらい財団」(2010年設立)の支援活動があります。地域住民、行政組織、企業(常石グループ)が協力し合いながら「地域活性化や子どもの健全育成を通じて、地域社会の皆様のより豊かな生活を支援する」というこのプロジェクトの運営は、多くの人々の理解と共感を得て、活発な活動を展開しています。

※主な活動は別表をご覧ください。

## ツネイシみらい財団の 未来

常石グループは、その原点である海運業から、造船、エネルギー、環境、ライフ＆リゾートに至るまで、設立、発展、可能性のすべてにおいて、地元である福山市、尾道市の人々と深い縁を持つている企業グループです。このことは、事実、設立から今日まで、活動を支援した団体、助成・協賛したイベントのほとんどは、福山市と尾道市に関係したものでした。

こうした地域密着型のCSRと並行して、新たな動きが始まりました。それは「一般財団法人ツネイシみらい財団」(2015年設立)としての活動です。「一般財団法人」と「公益財団法人」。この二つのツネイシみらい財団の違いは、次の通りです。地域に密着した事業支援、イベントの助成・協賛などの活動をする「一般財団法人」。これに対して、広島県や岡山県をはじめ、中国地方全般の広大なエリアをカバーする「公益財団法人」。このように「み分けしていくことを計画しています。

## 地球レベルのCSR

着々とエリアと実績を広げる常石グループのCSR。これと並行するように、海外の拠点でもCSRに関連する各種の活動を開催しています。例えばフィリピンのバランバンでは、医療、教育、自然環境の充実による地元社会資本の整備に関する活動。中国では医療、教育環境の整備などによる地元の人々の暮らしサポート。また、南米では教育支援(奨学金)、スポーツ大会支援など、主に人材育成に関連する支援活動を開催するなど、常石グループのCSRは地球レベルですそ野を広げようとしています。



第7回

# ファミリー総会

3月30日(土)、無明院において  
ファミリー総会を開催しました。

## スケジュール

15:00	先祖供養、家長挨拶 サマースクール報告
15:50	写経
17:30	夕食会(ベラビスタ)
20:30	終宴



## アンケート結果

26.1%

とてもよかったです

56.5%

よかったです

13.0%

ふつう

4.3%

あまりよくなかったです



## ご意見・感想

- ・年齢や性別に関係なく参加できるレクリエーションや体験はいかがでしょうか(おじいちゃんと孫など、さまざまな世代でコミュニケーションを取ることができる)。
  - 〈遊〉ボードゲーム、囲碁、将棋、麻雀
  - 〈聴〉JAZZ演奏会など
  - 〈作〉アート製作、料理、お菓子
  - 〈動〉パターゴルフ、サイクリング(神石)
- ・夕食時に子どもたち数人に(小・中・高・大)、「がんばっていること」や「学んでいること」などをスピーチしてもらったり、演奏などモンストレーションをしてもらいたい。
- ・たまにしか会わない子どもたちの成長を皆さんと分かち合いたい。
- ・1年に1回皆さんに会えて良かった。子どもたちの成長が楽しみ。あまり気張らず、末永く続くようにと願っています。
- ・射的や輪投げがあって楽しかった。
- ・親族の皆さんと集まってお話しできる貴重な機会で、いつも参加させていただきありがとうございます。
- ・まずは参加者が増えるように、気軽な感じ、食事会だけでも良いのかもしれません。
- ・第5世代のためのイベントであれば、大浜のバーベキューでもいいかもしれません。
- ・第5世代が大きく成長していて、とても頼もしく思いました。もっと世代を超えて話し合える場が欲しいと思います。
- ・新年の半日で良い。お金がもったいない。親たちが面倒を見ないといけないほど仲悪くはない。
- ・福山だけでなく、他の遠くにもみんなで行きたい。
- ・ディズニーランドに行きたい。(2件)
- ・木魚を叩く体験(ミニ木魚・子供みんな)。

## 今年もサマースクールに4人が参加します

神原 牧穂さん



神原 小百合さん



神原 璃穂さん



武田 華穂さん



# 今『生徒会&山岳部』に夢中です!



第5世代の方に、自分が「今」  
好きなものを自由に紹介してもらいます。

神原 一輝さん



## >>> 生徒会

### >>> kazuki kambara

僕が今夢中になっていることは、生徒会運営です。僕は先日行われた生徒会長選挙に立候補し、令和元年度の生徒会長になることができました。これまでの生徒会は、中学で生徒会に携わってきたメンバーが高校で生徒会長になることが慣習でした。



### >>>

最後に、生徒会では人をまとめる立場になりました。今、普通の生徒であれば経験できないような経験をさせてもらっています。生徒会は奥深い所です。小・中学生、高1の皆さん、ぜひ生徒会に目を向けてみてはいかがですか？

#### ▼生徒会集合写真



▲このような場所には鎖がついて鎖場といいます。



▲富士山を奥に友達と！この時、山菜天ぷらを食べました。これがうまい！

### >>>

今回、僕は「今まで生徒会運営に携わっていないからこそ、新しい視点で新しい風を送る」というキャッチフレーズをもとに選挙に臨みました。相手は元中学生徒会長だったため正直勝つことは難しいと思っていましたが、そのおかげで直前まで自分の気を緩めることなく選挙に挑めました。そのことが、勝利へつながったのだと思います。

### >>>

当選したからには、自分の公約を実現させなければいけません。さらに、この1年自分は生徒会長などという自覚を持って行動し、生徒の期待に応えていきたいと思います。公約実現に向けて今まで生徒会に携わってきたメンバーと手を組み、一歩ずつ着実に本丸に攻めていきます。

また、部活動である山岳部も並行して取り組みたいです。

## >>> 山岳部

▼八丈島に着いてすぐにテントを建てました。この時この4人は八丈島まで船の甲板にいたので、船酔いもせず元気でした。



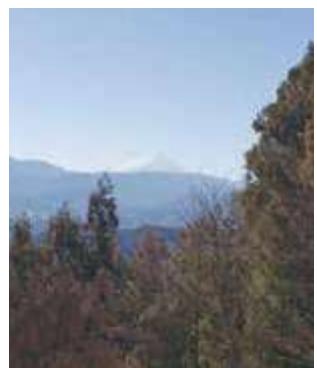
▼この下り坂は実は登っているもののなんです。というのも山に登るために山を下る行程があるのであります。



▼登山の後はこういった清流で汗を流します！着替えを忘れたらこの爽快感は味わえません。



▼陣馬山にて



▲景信山から富士山を望む

>>> 次回は、  
武田 浩樹さんに  
リレーします。  
お楽しみに！



